ひなたぼっこ

No. 135

宮城県高齢者生協機関紙
（ささえあい生協宮城）
2020年12月1日号（第135号）
■発行所　宮城県高齢者生活協同組合
発行人　長尾　智美

〒981-3203
仙台市泉区高森3-4-131
TEL　022－343－7655
FAX　022－343－7666
E－mail: koreikyo@poppy.ocn.ne.jp
URL: http://miyagi.koreikyo.jp/

「事業所交流会」を開催しました

令和2年10月21日（水）13時から16時まで、宮城県高齢者生活協同組合（以降、「高齢協」と表記）の事業所が集まり、労協センター事業団・東北事業本部・会議室にて交流会を開催いたしました。その様子を紹介します。

今年度の総代会で提案しましたように、地域活動を活発にしていくことを重点に取り組んでいきます。

今回の交流会は、それぞれの事業所で取り組んでいることを発表しあい、参考に出来る部分は学びながら、各事業所で取り入れて、高齢協らしい活動を展開して欲しいと思って開催をいたしました。（丹野幸子理事長）

各事業所より

泉西部地域福祉事業所

泉西部地域福祉事業所の取り組みは、最初は仙台市内の桜岡天満宮や榴ヶ岡公園めぐり、「菖蒲を見る会」など、月1回の活動を原則として、2020年まで実に90回にもなる企画を開催しています。

いきいき安心サポート隊の活動は、2017年から始めて、換気扇掃除や調理などを実施、「高齢になると動けなくなるんだな～」と実感しながら自分の将来のことを考えてしまいます。買い物支援も多くあり、「たばこ2個、一緒に猫の餌も」という依頼があります。また、銀行の付き添いではキャッシュカードが無いので窓口で目が見えず書けないないということで記入を代行したりしています。

居場所作りで集会所を考えていますが、集会所に行くまでの不便さがあり、組合員の自宅を開放しての活動です。先日は20人も集まりました。

2012年から2017年
「ささえあい生協組合員フェスタ」
2012年から2020年
「泉西部地域福祉事業所」
2014年から2020年

「いきいき安心サポート隊」それぞれの活動のまとめを冊子にして説明がありました。

（永野まり子理事・加藤美佐さん）

名取地域

生活支援で、草刈りや窓拭き、障子張りなどを行っています。現在はすぐに動ける人が3人ほどで、支援の要望は多くありますが対応しきれないという厳しい状況です。男性も2人ほどいますが運転がもう出来ない状態です 。

支援の要望は名取が丘だけではなく仙台市内～若林～八木山～向山などあります。金額は支援費用が1時間千円です。交通費は名取市内はなし、仙台は500円となっています。かなり安いです。

昔からの長いつきあいでありますが、対応する人の不足もあり大変困っています。

代表者の遠藤さんが作る「辛子大根」は人気で今年も作る予定です。（加藤久子理事）

若林地域

若林クリニック友の会と高齢協が「暮らしの助け合いの会」という有償ボランティア組織を立ち上げて活動しています。

個人支援として高齢者のゴミ出し、買い物、銀行の付き添い、草刈りなど行っています。食事会は会費300円で、2か月に1回開催をしていましたが、今はコロナ禍で茶話会をしています。（福島さんより・当日は参加出来ませんでしたが資料報告をいただきました）

ひなたぼっこ石巻

部屋の利用は、着物のリフォーム サークル、パソコン愛好会、習字教室などで活用されて、サークルから部屋使用料300円をいただいています。

もり眼科が隣で、通院帰りの方々とか若いママが子連れで遊びに来たり、うどん・そば（有料）で組合員昼食会をしています。

最近は郵便局の配達員が「配達していると朝から誰とも話をしなかったりする」とショートティタイムを楽しんでいきます。

また、石巻にいる組合員に「元気ですか?アンケート」を送り、このコロナ禍の中でどう過ごされているのかその状況を把握し、アンケートをキッカケに電話で安否と元気度の確認をしようと考えています。そして組合員から石巻が黒字に近づくための策を学ぼうと計画をしています。

一人一人の組合員が組合員を増やす活動をしてくれるといいかなと思っています。

（遠藤昇理事・遠藤ちよみさん）

小規模多機能型居宅介護事業所

いろり庵こぶし

コロナ禍で、面会は基本お断りしていますが、名前を書いてもらいながら短い時間で対応しています。芸能ボランティアの活動や地域のボランティアもお断りしている状況です。

楽しみのひとつであるお買い物はコロナ禍で職員が欲しいものを聞いて買い物代行のような対応をしています。花見は車の中から、こぶしの中で浴衣を着て写真を撮ったり、祭りはお店っぽくしたり、施設の中で季節感が出るような取り組みをしています。

（長尾智美専務理事）

指定管理事業

仙台市泉中央老人福祉センター

仙台市泉中央老人福祉センターでは「利用者さんはできるだけ名前で呼びかける活動で、おはようございます、こんにちは、ありがとうございます」「顔が見える運営と活動」を基本に行っています。

コロナ禍で来館者数７０％減の、３０人前後、風呂の利用は１５人前後、利用サークルも軽運動やパソコン、マジックなど文科系のものはコロナ対策をして開催しています。

いずみいきいき会の活動の様子（手芸部門）

入館時は氏名・連絡先・目的・検温を必ず記載してもらっています。風呂は1時間ごとの完全入れ替え制で、その都度風呂場内脱衣室の消毒作業、館内は2時間ごとの消毒作業を実施しています。

新しい取り組みとして１０月２日に「いずみいきいき会」というボランティア会を社会福祉協議会のモデル事業として立ち上げています。特徴的なことは部門構成で行い、マスク・エコたわし・雑巾作りなどを行う「手芸部門」、センター周辺の草刈りや花壇整備などの「環境整備部門」、自分の得意な芸や趣味を披露する「芸能部門」の3つで活動しています。

手芸部門で作ったマスクや雑巾は、周辺施設や近隣小学校へ寄付する活動も始めています。

のんびり過ごせる時間も含めながらすすめていく会です。教える人もボランティアさんで「教え合い学び合い」それぞれに得意な部分を出し合いながら活動していきます。「芸能部門」は月1回、自分たちの特技を披露して楽しんでいます。

いずみいきいき会
の活動の様子
（環境整備部門）

自主的に自由に参加し、教え合い学び合い、いつかは社会貢献するといったゆるやかな雰囲気の活動スタイルです。決して強制はしません。必要な備品等は社会福祉協議会からの助成金で購入しています。

活動場所は現在、センター中心ですが、コロナ禍の状況により周辺施設の慰問や周辺地域への活動も範囲として考えています。将来的には生活支援を含めた有償ボランティアも検討しています。

また社会福祉協議会が主催する企業との交流会議では、雑巾用のタオルの寄付を呼びかけたところ「損保ジャパン」様より４００枚の寄付がありました。企業も巻き込んだ大きな活動になりつつあります。

（渡邉せつ子さん）

＊時期の指定管理者の内定を受けました。

まとめ

直接顔の見えるような働きかけと今みなさんが各事業所でやっていることを高齢協でやっているという意識を持ちながら、そして組合員さんの声を聞きながら長く続けていくことが大事だと思います。

次回は来年の5月頃を予定にしています。（長尾智美専務理事）

今、各事業所にはそれぞれの課題はあるものの高齢協全体として「どうしているのか?元気でいるのか?ということで、ひと声掛ける運動」が必要なのかもしれないですね。

（伊藤恵仁副理事長）

事業所からの報告

小規模多機能型居宅介護事業所　いろり庵こぶし

コロナ禍の「新しいケア」の探求

「定義の三角油揚を食べたいね」「紅葉を見に行かないの?」・・・コロナ禍で施設内外のレクリエーション活動が出来なくなって、利用者様からたくさんの複雑な思いを聞かされ、職員も辛く悩んでいます。活き活きと楽しさを持続させながら、日々の生活支援、月ごとのレク行事や毎日の活動、お誕生日祝う会、そして、施設内レクやおしゃべり会、季節の食膳やおやつ、訪問先でのコミュニケーションとサービス提供メニュー、その豊かさを職員の苦労と創意工夫で続けています。そして、これからは社会交流、季節の移り変わりの体感、思い出や今を語る他者との交流等で「新しいケア」として、映像モニターを使った国内外の名所や世界遺産観賞、他者交流等新しいサービスを提供する「今」なのかもしれません。

（上）秋の音楽会

こぶしの敷地内での芋煮会（右）→

組合員のみなさんへ　プレゼント

日本に古くから伝わる疫病を抑える妖怪「アマビエ」をお届・同封しました。

作者　岩出山の護摩寺

菅原公宇和尚さま

●病気平癒と人々の安寧を願い念仏を唱えながら、二本の足でどこまでも祈りの行脚をするアマビエ

作者　岩手県の画家

たんのそのこ氏

●医療関係者や感染者への誹謗中傷が聞かれます。傷つける人たちもこころは病に侵されているのでしょうか。疫病蔓延の恐怖で暗い気持ちですが、こんな時こそ明るく支え合って過ごしましょうと祈るアマビエ

【お知らせ】

令和３年度高齢協　社会連帯共同企画

震災復興の旅

令和3年3月１１日は、東日本大震災１０周年。震災復興にあたり、宮城高齢協は全国から大きな支援を受けてきました。石巻のサロンはその足掛かりとして開設されたものです。これまで、復興の現状を確認し、全国の励ましにも応えようと、山形や岩手の高齢協と共同で、震災復興ツアーにも取り組んできました。来年は、こうした取り組みをまとめ、新たな運動を展望して、全国高齢協・山形高齢協との震災復興１０周年企画を計画中です。これには高齢協の姉妹団体、ワーカーズコープ東北事業団の「社会連帯委員会」も加わり「１０年目復興ツアー」として実施・交流の予定です。ぜひご期待下さい。（詳細は次号掲載予定）